

中央大学法科大学院入学式

327人が法曹の新しい道めざして

「ロースクール元年」を告げる中央大学法科大学院の入学式が4月4日、理工学部5号館アリーナで行われた。中央大学法科大学院には全国最多の5413人が出願し、難関を突破してこの日入学した一期生は法学既修者260人、法学未修者67人の計327人。法曹界の新しい道に挑む意欲を胸に、それぞれが一步を踏み出した。

学生記者

原田成(理工学部3年)

古賀清人(同)

タフな法曹―決意と使命

雨もよい、肌寒さも残るがサクラは満開。式典は、午前中に行われた理工学部の入學式のと、午後3時半からはじまった。

一期生を前に、角田邦重学長は入学を祝いつつ、「法科大学院は、新司法試験の合格者を確実に出せるかどうかと問われる一方、どうい

門的質を備えた法曹を育てることが出来るかという質を問われており、いわば二兎を追う宿命をもっている」としたうえで

「中央大学の法科大学院がそれに失敗するようなことがあれば、今回の司法改革のそのものが成功しなかったのだという評



価を受けることになりかねない」と法科大学院としての決意と使命を強調した。

大村雅彦・法務研究科長に続き、阿部三郎理事長は、オウム真理教の破産管財人をつとめた自身の経験を交えて、「実務」「実学」の重要性を語った。

来賓祝辞では、法科大学院特任教授就任の直前に最高裁判事を拝命した才口千晴氏が「小さく固まらずにタフな法曹をめざしてほしい」と独特な語り口調で一期生への期待を述べた。

学部の入學式とはやはり趣が違う。一期生の平均年齢は約28歳。女性も多い。法学既修者で3割、未修者では男子を数で上回るという。会場にはベビーカーを引いた主婦学生もみられた。式のと、なかなか懇談パーティーが開かれた。

多彩な入学生……武田礼子さん 「目標はリーガルカウンセラー」

多彩な顔ぶれの一期生たち。武田礼子さんも目をひく一人。キャンノンからオランダ航空のキャビンアテンダーに転身し、さらに筑波大学大学院に進んで心理学を修め、同大講師兼カウンセラーに、という経歴の持ち主だ。

志望の動機は？

「離婚問題の相談にいらつしやる方のお話を聞くことで精神的な問題は解決する事はできるんです。でもそれだけではその人が抱える問題は

解決しない。法的な側面からもケアしていくことよってその人の心理的

負担をトータルでサポートしていきたいんです。

もつとも法科大学院への入学を決めたのは願書締め切りの一週間前。

偶然、募集要項を見つけて、すぐに受験資格を取ろう、と決めました。

私は法学未修者で、スタートは真っ白な状態だったんですが

中央大学を選んだ理由は？

「私にとつては『法科の中央』というのが頭の中にありました。その勢いですね」

もう一つ理由

があつて、と続けた。

「来年、中学になる娘がいるんです。一女

性として『こういう生き方もある』と教えてあ



カナダ憲法を中心に英米公法を講じる長内了法学部教授（大学院併任）である。

げたい、と。女性は男性に比べてわりと自由に生きる。多面的にモノを見て人生を楽しんで欲しいですね。

同性の先輩として私の背中を見てほしい。中途半端にはできません、これからはね」

めざすのは、心理と法律の両面からサポートする「市民生活密着型のリーガルカウンセラー」だという。

「大学院では法学既修者に臆することなく、精一杯頑張りたいです。法律を知らなくてもハンディにならないぞ！って」

「世界の法曹めざせ！」長内教授

一期生同士であいさつを交わしたり、また教授を交えた談笑の輪があちこちで見られた。

「中央大学のロースクールは総合デパートだと言われることがあるが、全く違う」と語るのは、アメリカ。

「中途半端な6つの分野の集合なら百貨店だが、6つの専門店の集合体なんだよ。中途半端な教育はしない。一流の教授陣を集め、意欲のある学生にも来てもらった。カリキュラムも素晴らしいものになった。全国300カ所の法律事務所実務を学べる『エクスターンシップ』などOB法曹を中心としたサポートも充実している。我々はもつと大きいビジョンと開かれたプログラムをめざしてこれからも日本の法曹界を背負っていく。学生諸君は中央大学そして日本のためだけでなく、世界のために活躍できる法曹になってほしい。チャンスをもたらしたのだから、チャンスを生かせ、と言いたいね」

一期生にすれば、この目の裏だけがつかの間の憩い、だつただろうか。直後から、タフでハードな講義や演習が市ヶ谷キャンパスで始まった。



カウンセラーから法曹めざす武田礼子さん